様式第４号（第 11 項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和６年度 第１回北はりま定住自立圏共生ビジョン会議
開催日時	令和６年11月25日（月曜日） 午前９時30分～11時45分
開催場所	西脇市役所　３階　大会議室
出席委員の氏名又は人数	13人
欠席委員の氏名又は人数	１人
出席職員の職･氏名又は人数	オブザーバー５人、事務局３人、各事業担当者
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	―
傍聴人の数	０人
議題又は協議事項	１　第３次北はりま定住自立圏共生ビジョンについて ２　第３次北はりま定住自立圏共生ビジョンの具体的な取組内容について ３　第４次北はりま定住自立圏共生ビジョンの策定について

会議の記録（概要）

発言者	
事　務　局	（開会） （事務連絡）
西脇市長	（開会あいさつ） 西脇市と多可町との１市１町による「北はりま定住自立圏共生ビジョン会議」において、兵庫県立大学の三宅先生をはじめ、委員の皆様には大変御多忙の中御出席をいただき感謝申し上げる。また、オブザーバーとして、北播磨県民局にも出席いただいている。 言うまでもないが、多可町と西脇市は共通の地域資

	源を持つなど、地域の「つながり」が強く、これまでから医療や消防、ごみ処理など広域行政を活発に進めており、今後も連携して進めることが必要になる。 　本日は連携事業の取組状況について、それぞれのお立場から広い視点で忌憚のない御意見を賜りたい。また、来年度には「第４次共生ビジョン」の策定が始まる。委員各位には、北はりま定住自立圏の推進について、引き続きお力添えを賜るようお願い申し上げる。
事　務　局	（委員等出席者の紹介） 　委員の自己紹介、出席者の紹介
事　務　局	（会長・副会長の選出） 　三宅委員を会長に、齋藤委員を副会長に選出 ―　以後、三宅会長が進行　―
会　　長	（会長就任あいさつ） 　行政の広域化というのは、真剣に検討しなくてはいけない時期にきている。同じ文化、同じ風土、同じ気候を共有する西脇市と多可町は、特に一緒になって将来のあり方を考えていかないといけないと思う。 　委員各位には選出された分野でぜひ発言いただき、広域化や協力関係の構築に向けた、お知恵を拝借したい。
会　　長	（議事１　第３次北はりま定住自立圏共生ビジョンについて） 　資料１に基づき、事務局から説明 （質問等なし）
会　　長	（議事２　第３次北はりま定住自立圏共生ビジョンの具体的な取組内容について） 　資料２の見方を事務局から説明 　資料２に基づき、各事業担当者から説明 ―　【グループ１】の事業　― （No.１、２、４、７、８、11、12）

委　　員	（No.２　医療従事者確保対策事業） 西脇病院の看護師が不足していると聞く。看護師確保の状況、また、常勤医師が不在である診療科への対策などをどのように考えているか聞かせてほしい。
西脇市担当者	看護師確保に大変苦慮している。正規職員と再任用職員を合わせたフルタイムの職員数は、令和２年度の277人がピークで、令和６年４月１日現在では 247人。約４年間で30人程度減少している。 対策・取組として、事業シートに記載する施策はもちろんのこと、離職防止が大変重要だと考え、勤務環境の改善に取り組んでいる。具体的には、他の医療職とタスクシェア（他の医療職ができることはタスクをシフトさせる）、また、タスクシフトの一環として、派遣業者による看護補助者の増員等を進めている。 医師の確保について、耳鼻いんこう科と泌尿器科、精神科の常勤医が不在となっている。紹介業者等への働きかけや大学に要望するとともに、地縁や血縁なども辿って、早期確保に取り組んでいる。
委　　員	医療従事者を確保することで病院が充実し、当然収益は上がり、市民も安心して受診できる。今後も頑張ってほしい。
委　　員	医療従事者に関連して、西脇市と多可町が負担金を拠出する播磨看護専門学校の状況は。また、西脇市内には大山記念病院があるが、西脇病院との関係は。
西脇市担当者	大山記念病院とは救急診療等については競合関係にはあるが、相互にカバーしあっている部分もあり、協力体制をとりながら地域に影響が出ないよう対応している。
オブザーバー	播磨看護専門学校について、現在は西脇市長が管理者を務めている。１学年定員35人で、約10人を西脇病院で採用。播磨看護専門学校は西脇市、多可町、加東市、加西市の４自治体で運営している組合立であり、少子化で生徒集めも大きな課題になっている。正直言

	って取り合い。各市町の首長がそれぞれの市町内の高校へ出向き、「地域で」生徒を育てるアピールをしている。ぜひ委員にも専門学校が進学先の選択肢としてあることを覚えておいてもらいたい。
委　　員	（No.11　高齢者等の見守り事業） 成果指標（ＫＰＩ）の評価が令和３年度からＡ評価で、頑張っていることが分かる。市町ごとの事業費が高額ということは、それだけ高齢者関係の大きな課題があるということか。郵送料が高額なのはなぜか。
西脇市担当者	令和５年度現在、あんしんはーとねっと事業協力事業者として西脇市は 125、多可町は 140の登録がある。多可町の登録事業所が多いため、多可町の事業費が高くなっている。
委　　員	（No.４　休日急患センター運営事業） 成果指標（ＫＰＩ）の目標が受診患者数 500人となっているが、その理由は。また、救急の受診患者数が増加することで達成率が上がるのは評価なのか。救急搬送される方が少ない方が、よいのではないか。各市町が健康増進活動を行う中、受診患者数は伸び悩んでもよいのでは。
西脇市担当者	基準値として、令和元年度の実績値 364人を設定している。以前から年間 400後半から 500人程度で推移しており、そこから定めたもの。ここ数年受診者数が減少したのは、新型コロナウイルス感染症の影響で、コロナ患者が発熱トリアージ外来を受診した結果。 休日急患センターでは、１次救急（風邪等の軽症患者）を受け入れている。現在の指標は、患者ニーズに応えられたかを測る指標であり、第４次共生ビジョンの策定時に見直す予定。
委　　員	（No.７　へき地医療拠点病院事業） 成果指標（ＫＰＩ）の多可町立診療所の医師派遣回数と診療日数について、令和３年度以降は派遣回数が増えたにもかかわらず、診療日数が減少した理由は。

西脇市担当者	令和３年度までは常勤医がいたため、派遣回数は少なかったが、令和４年度以降、医師の体調不良や退職などがあり回数が増加した。常勤医がいない状況ではあったが、高い達成率で事業を継続できた。
委　　員	（No.９　介護認定審査会事業） 成果指標（ＫＰＩ）に審査会の開催回数が設定されているが、申請数や処理件数、認定数の方が大切ではないか。
西脇多可行政事務組合 担　当　者	第４次共生ビジョンの策定時に検討する。令和５年度の申請者数は 3,762人、令和４年度は 2,997人で、会議開催回数に比例して増加していると考えている。
会　　長	評価は数字だけで見るのではなく、次回以降は正当な評価をされたらよいのではないか。 ―【グループ２】の事業 ― （No.14、16）
委　　員	（No.14　スポーツイベント交流事業） 西脇多可新人高校駅伝は、スポーツ推進委員もお手伝いしているところ。近辺を走る車のナンバープレートを見ると、応援を含め西脇市にたくさんの人が来られていることが分かる。取組評価に、事務局に大会経験者がおらず事務手続の不備が生じたとある。毎年事務局の担当者が異動したり、人数が少なかったりする中、今年も二の舞にならないか。このスポーツイベントや事務局について、次回開催の２月に向けてどのように考えられているか質問したい。 また、部活動の地域移行に関して、こういった駅伝大会に参加する生徒を見守る親御さんたちは、中学生のときに部活の経験があるからこそ地域スポーツが成り立っていると思う。大学院の教授から、日本だけが部活動というものがあり、海外では学校で部活動をしながらスポーツをすることはないと聞いた。日本の部活動の仕組みが独特であることが分かり、地域移行の流れが大変理解できた話だった。これから20年から30年後、中学校で部活を経験しない子たちが大人になっ

	たときに、どう地域スポーツや文化を支えていくか。今の中学生の環境に大きく委ねられるのではないかと思う。中学校のスポーツ・文化のあり方を、両市町ではどのように考えているのかお尋ねしたい。
西脇市担当者	令和５年度開催の駅伝大会は、前回大会から４年ぶりの大会。その間に人事異動等があり、大会経験者が不在となった。今年は前回大会の経験者が引き続き担当し、２月の大会に向けて準備を進めている。 部活動の地域移行について、西脇市では検討会議を立ち上げて、委員に協議いただいている。文部科学省は、子どもたちが引き続いて活動できる機会の確保への取組を示している。できるだけ子どもたちの希望を聞きながら進めたいと考えている。
委　　員	異常気象（気温の上昇）によって、スポーツに制限がかかることがあり、子どもたちの運動環境が悪くなっていると思う。カルチャーセンターやアスパルは冷暖房設備があり、それらの整備をしっかりすることでスポーツができる環境を整えることにもつながるのではないか。小中学校の施設を借りて大会を開くこともあるが、地域住民も使う施設であるため、それらの環境整備も考えてもらえたらうれしい。
委　　員	特に意見なし。
委　　員	（No.14　スポーツイベント交流事業） 西脇工業高校の駅伝が頑張っている。全国大会でテレビ画面に映ると、西脇市や多可町、兵庫県のＰＲになる。まちおこしには様々手法があるが、駅伝が盛んであることも資源。広域からバスを使い、宿泊し、試走などをすると地域にお金が発生する。観光や経済、産業の面から事業にすることができるのではないか。 ―【グループ３】の事業― （No.18、19）
委　　員	特に意見なし。

委　　員	（No.18　農産物直売所運営事業） 若い就農者が増えているが、販売場所がないとよく聞く。成果指標（ＫＰＩ）の評価では、出荷者が減少とあるが、旬菜館への出荷のハードルが高いのか、周知が足りていないのか。小規模就農者が集まってテント販売したり、多可町内の道の駅で販売したりもしているが、販売枠がいっぱいといったことも聞く。旬菜館でもっと販売できるのではないか。多可町商工会では、就農者と移住してきた飲食業者をマッチングさせ、地場の野菜を提供することを一度考えてみようと話している。
委　　員	（No.19　地域事業者成長支援事業） 地域事業者にとって、一番の課題は人材不足と価格転嫁。規模の大きな事業者は外国人労働者を採用するところもある。商工会・商工会議所は市町内の高校へ説明会を行っているが、就職希望の生徒が少ないこともあって確保につながっていない。政府は最低賃金の引上げを打ち出しているが、地域の事業者にとっては苦しい面がある。 播州織のブランド事業に関して、播州織産地博覧会（播博）がにぎわいを見せている。素材提供だけでなく、最近は製品を作る事業者が増え情報発信もある。オープンファクトリーもその一つだが、地場産業と観光を結び付けた取組がこれからも必要ではないか。次回の播博のスケジュールを教えてほしい。
西脇市担当者	旬菜館は開設から約13年が経過し、当初からの出荷者の高齢化が相まって出荷者数は減少している。御意見を踏まえ、株式会社北はりま旬菜館や出荷者協議会にも働きかけて、若い就農者への声掛けを進めたい。
西脇市担当者	播州織産地博覧会は来年６月に開催予定。また西脇・多可のオープンファクトリーは、大阪・関西万博の開催期間中の９月末ごろの開催を検討している。
委　　員	（No.20　有害鳥獣有効活用事業） 事業費のうち市町で委託料の値段が異なっている。また、鹿は記載があるが、イノシシはないのか。

西脇市担当者	西脇市は単価 2,000円。市内で捕獲した鹿を多可町の施設に搬入しており、輸送料として猟友会に支払っている。
多可町担当者	多可町は単価 5,000円。施設の運営支援を目的とした単価設定にしている。鹿肉はドッグフードに加工しており、イノシシの搬入受付は行っていない。
委　　員	成果指標（ＫＰＩ）は鹿肉加工施設への搬入頭数が設定してあるが、目標値の 325頭は受入上限か。
多可町担当者	施設規模では受入れに余裕があるが、これまでの実績から、平時に運営できる頭数として 325頭を設定している。
委　　員	西脇市の委託料は搬入料とのことだが、猟友会への支払いはないのか。
西脇市担当者	猟友会に対し西脇市は、搬入料として１回 2,000円を支払っており、鹿の捕獲は別途支払っている。
委　　員	一部の自治会では網を張っていないところがあり、そこから鹿が侵入してくるようだ。対策を考えてほしい。イノシシの処理についても考えていただけるとありがたい。
委　　員	（No.17　地域ブランド普及開発推進事業） （No.18　農産物直売所運営事業） 成果指標（ＫＰＩ）の北はりま旬菜館の加工品売上高と圏域出荷者売上高について、説明いただきたい。
西脇市担当者	圏域の出荷者売上高は、西脇市・多可町の出荷者による農産品及び加工品の売上高。野菜などを含めた農産品と加工品の売上高をいう。加工品の売上高は、加工品のみをいう。
	― 【グループ４】の事業 ― （No.21、24、27、28、31）

委　　員	（No.27　地域公共交通ネットワーク事業） 成果指標（ＫＰＩ）を見ていると、公共交通の利用者数が増え、目標値を達成しているのは事業者としてありがたい。 令和３年４月に乗合タクシー「むすブン」が始動し、運行台数は５台から６台へ増車した。利用者数が非常に増えていると感じているが、令和４年度、５年度の実績と、６年度の予測をお尋ねしたい。
西脇市担当者	令和４年度は36,200人、令和５年度は39,136人、令和６年度も順調に伸びている。
委　　員	令和５年度に１台増車したことで利用者数が 300人増となったということでよいか。
西脇市担当者	そのとおり。
委　　員	（No.30　観光交流促進事業） 先週末にＪＲを使った紅葉ハイキングを実施した。降雨や寒さが厳しい中、黒田庄町の荘厳寺を訪問したが、参加者からの評価は高かった。私たちは自信をもって、観光ＰＲをしていかないといけないと思った。都市部から西脇・多可へ観光客を誘致したいと思う。
委　　員	（No.27　地域公共交通ネットワーク事業） 中学校の統合により、徒歩や自転車通学だった生徒がバス通学になることが考えられる。その場合のバス代はどうなるのか。
多可町担当者	多可町は令和８年４月に統合中学校が開校する。通学定期代は町負担を考えており、教育委員会内で調整している。
委　　員	（No.27　地域公共交通ネットワーク事業） 日野地区の北部は、西脇市と多可町のバスが競合している。西脇市の住民が多可町のバスに乗ると運賃が高くなる。考慮してもらえるとありがたい。 令和５年度の実績にある、多可高生への通学定期券

	代助成について教えてほしい。
多可町担当者	競合部分は、路線再編の際に検討している。 多可町外から多可高校へ通う生徒に、通学定期券代（４分の１）を助成している。
委　　員	特に意見なし。
	― 【グループ５】の事業 ― （No.32、35、36）
委　　員	（No.32　木質バイオマスエネルギー利用促進事業） 北はりま森林組合では年間27,000㎥の木材を森林から搬出し、エネルギーとしてチップにも活用している。山の管理は防災の観点からも重要。多可町内では孤立するといわれる集落が15あると聞くので、スピードアップして山を整備しなくてはならない。 健康の意味でも、山を歩くハイキングなどで山の価値が上がり、心を癒す環境が整っている。整備事業の進め方や環境譲与税の有効な活用について教えてほしい。 宍粟市に森林大学校があるが、そこの学生が北はりま森林組合に就職したいと訪問・面接した。住む家が必要になるが、住宅支援等は行ってもらえるか。
多可町担当者	森林環境譲与税を活用し、森林空間の整備や、皆さんに山を知り、協力いただけるような広報活動を進めていく。 定住支援について、多可町外の住民が組合に就職する場合は、住宅手当がある。
委　　員	（No.27　地域公共交通ネットワーク事業） 多可町の令和５年度の取組評価で、「路線バスの利用者数は減少していることから、原因究明及び改善策を検討する」とある一方、成果指標（ＫＰＩ）の評価では「通学利用を中心に利用者数が堅調に推移した」とある。
多可町担当者	人口減少で八千代区の大屋線や大和線の乗車人数は

	減っているが、通学定期券を使って通学する高校生がいるため、ある程度バランスが取れている。
委　　員	（No.25　広域斎場管理運営事業） 　令和５年度の葬祭場・和室等の利用率が67.9％。火葬のみの施設利用者が３割いると捉えてよいか。
西脇多可行政事務組合 担 当 者	67.9％はやすらぎ苑で葬儀のあった件数をカウントしている。西脇市・多可町内にある他の葬儀施設や自宅で葬儀を行う場合は、利用率に計上していない。葬儀等を全く行わず、火葬利用のみもある。
会　　長	（その他　第４次北はりま定住自立圏共生ビジョンの策定について） 　資料３に基づき、事務局から説明
事 務 局	（事務連絡）
多可町長	（閉会あいさつ） 　活発な御意見を賜り、感謝申し上げる。次期共生ビジョンに向けて、参考にさせていただく。 　人口減少は一番の課題で、消滅可能性自治体との言われ方もしている。１市１町の定住自立圏において、中心市の西脇市は、圏域全体の暮らしに必要な都市機能を集約的に整備する役割を担っている。多可町は必要な生活機能を確保し、農業・林業の振興や豊かな自然環境の保全を図っていく役割がある。連携・協力することで、圏域全体の活性化が図れればと思う。 　ビジョン改定に向け、改めて、１市１町の結びつきについて見つめ直し、強いところはさらに強く、弱みはどのように補っていくかという議論を進めさせていただきたく思う。滝野社インターへのアクセス、都市部へのアクセスについて議論がテーブルに乗ればと思っている。 　長時間、ありがとうございました。
問合せ先	西脇市市長公室政策推進課 TEL：0795-22-3111（内線3054） FAX：0795-22-1014